

《担当者名》教授 / 小林 道也

【概要】

抗がん剤は様々なルートから患者に投与され、その体内動態も多様である。本特論では、汎用される抗がん剤の生体内運命について基本的事項を理解し、薬物間相互作用や副作用の発現を回避するための留意事項について学修する。

【学修目標】

- ・代表的な抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄について説明できる。
- ・代表的な抗がん剤の薬物相互作用の機序と回避法について説明できる。
- ・代表的な抗がん剤の副作用を列挙し、その回避法や軽減法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	抗がん剤の体内動態	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤をアルキル化薬、白金製剤、代謝拮抗剤、トポイソメラーゼ阻害薬、微小管重合・微小管脱重合阻害薬、抗腫瘍性抗生物質、分子標的薬、その他に分類し、それぞれの薬理作用群ごとに体内動態の特徴を概説できる。 ・代表的な抗がん剤の消化管吸収（吸収性、トランスポーターの関与等）について説明できる。 ・上記抗がん剤の組織移行性（トランスポーターの関与を含む）とタンパク結合性について説明できる。 ・上記抗がん剤の小腸代謝、肝代謝ならびに抱合について、酵素分子種の観点から説明できる。 ・上記抗がん剤の尿中排泄と胆汁排泄（トランスポーターの関与を含む）について説明できる。 	小林 道也
5) 7	抗がん剤の薬物相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の消化管吸収過程における他の薬剤や食品等との相互作用について説明できる。 ・抗がん剤の臓器移行性とタンパク結合における他の薬剤との相互作用について説明できる。 ・抗がん剤の小腸あるいは肝代謝ならびに抱合反応における他の薬剤との相互作用について説明できる。 ・抗がん剤の尿中排泄と胆汁排泄における他の薬剤との相互作用について説明できる。 ・抗がん剤の薬物相互作用に対する回避法について説明できる。 	小林 道也
8) 9	抗がん剤による副作用	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の薬理作用群ごとに特徴的な副作用について説明できる。 ・抗がん剤による副作用（骨髄抑制、嘔吐、下痢、手足症候群等）を軽減する方法を説明できる。 	小林 道也
10	事例解析と対処法の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬事例をもとに、抗がん剤による患者不利益の発現を説明し、対処法を立案できる。 	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席・学習態度・ディスカッションの内容（50%）およびレポート（50%）により成績を評価する。

【教科書】

なし（毎回資料を配布する）

【参考書】

治療薬マニュアルなどの医薬品情報集

【学修の準備】

インターネットを用いて情報を収集する機会が多いので、パソコンの操作に慣れておくこと。